

先送りできない岐路に立つ福智町、現状に即した行財政改革に挑む

行財政改革で町を未来へ

公共施設の統廃合を進める中で特に重要な公共交通の再編も同時に取り組む福智町。単なる行政規模の縮小に終わらせないよう「削る、残す、創る」の三拍子そろった行財政改革で、現状に見合うまちづくりへの転換を目指して参ります。

行政サービスの持続担う
 公共交通の再編を目指す

行財政改革の一環として福智町は、公共施設の統廃合によってさらに需要が高まると考えられる町内の公共交通の再編に取り組んでいます。人工知能(AI)を導入する検討もなされるこの再編。利用者、事業者、行政の現状と課題を踏まえ、効率化・合理化した公共交通が実現できるよう、今後も取り組みが進められる予定です。この再編にかかる経費の財政負担を最小限に抑えるため、国の「デジタル田園都市国家構想推進交付金」を活用した推進を目指しています。



→人工知能を活用した公共交通システムの先進事例を共有する委員会、行政や交通事業者など、多分野との合意形成を図りながら再編を目指しています。

避けられない人口の減少
 町の現状に見合う転換へ

炭鉱最盛期には4万人超えの人口も今では半減し、今後も減少が続くと予測される福智町。しかしながら、合併当時から指摘されている20万人都市並みの公共施設の整理は未だ進んでいません。これらの多くが更新時期を迎える今、私たちは現状を受け止め、それに見合った行財政へと転換すべき時が訪れています。これらを進めるには、施設や事業の廃止を避けて通ることはできません。しかし、単なる行財政規模の縮小で終わらせないために、町の現状を分析しながら「削る、残す、創る」を同時並行で進めていく行財政改革を実現していく必要があります。

大きな分岐点に立たされている福智町。改革の変化に不安や不便を感じるかもしれません。しかし、今変わらなければ将来に大きな影響を与えることも確実です。コロナ禍で住民の皆様にご説明できる機会をもてませんが、福智町は将来のため、全力で行財政改革に取り組んで参りますので、皆さまのご理解とご協力をお願いいたします。

将来人口推計から見る福智町の「これまで」と「これから」

